

主 題：偉大な教師、母 聖書箇所：随所

子どもたちにとって両親は非常に大切な教師です。「両親は教師である」、恐らく、あなたはそのことを十分にご存じでしょう。なぜ、親が子どもを教えなければいけないのでしょうか？それはみことばによれば、子どもたちはみな例外なく「罪人」として生まれて来ているからです。彼らに問題がなければ教える必要はありません。問題をもって生まれて来ているから、私たちは彼らに正しく生きることを教えるのです。ソロモンは箴言29：15で「むちと叱責とは知恵を与える。わがままにさせた子は、母に恥を見させる。」と記しています。子どもはみな、生まれながらにわがままです。自分の好きなように生きていきたいのです。干渉されたくありません。まして、自分の持っているその自由を束縛されることなど彼らは望みません。ですから、そこにいつも戦いがあります。私の好きなようにさせて欲しいと言いますが、もし、私たちがそれを許してしまったら、彼らのわがままを許してしまうなら、聖書が教えるように後には恥を見させる子になるのです。

だから、私たちはしっかり教えないといけないのです。世の中ではこう言います。「子どもたちは自由奔放に育ててほしい。子どもなのだから…、無邪気な子どもなのだから…」と。だれがそのようなことを言っているのでしょうか？はっきりしていることは、創造主なる神はそのようなことは言われていません。神を知らない者たちがそのようなことを言うのです。なぜなら、神のみことばを見たときに、創造主なる神は、あなたの子どもたちが、いや、あなたに託した子どもたちがわがままにならないようにしっかりと教えなさいと命じています。そして、彼らが創造主なる神の前に正しく生きていくように教えなさいと命じています。神が託してくださった子どもたちは私たちの私物ではありません。この子どもたちが神の前を正しく歩んで行くように、親は彼らを教えなければいけないのです。では、どのようにして教えるのでしょうか？

☆子どもにどのように教えるのか？

1. 懲らしめをもって：悪い行ないを矯正する

聖書のみことばを見ると「懲らしめをもって教えなさい」と言います。箴言22：15には「愚かさは子どもの心につながれている。懲らしめの杖がこれを断ち切る。」とあります。彼らが罪を犯したとき、私たちはそれが間違いであることをしっかりと教えなければいけません。ときに、懲らしめが必要であると言います。もちろん、それは私たちの腹いせでするものではありません。愛をもって正しく、彼らを正しい道に導いていくために、神の知恵と力と助けをいただきながら、彼らを懲らしめていかなければいけません。聖書は確かに、懲らしめをもって彼らの悪い行ないを矯正するようにと命じています。

2. ことばをもって：神のみこころは何か

同時に、私たちはことばをもって彼らを教えます。彼らに何が神のみこころなのかを教えて行くのです。箴言1：8には「わが子よ。あなたの父の訓戒に聞き従え。あなたの母の教えを捨ててはならない。」とあります。また、6：20にも「わが子よ。あなたの父の命令を守れ。あなたの母の教えを捨てるな。」と記されています。このみことばが私たちに教えていることは子どもたちにこのように言うことです。「あなたたちは両親からしっかりと学んで来たでしょう。あなたの母が教えてくれた大切な教え、それを捨ててはならない。それから離れてはならない。」と。このように命じているのは、母が、もちろん父親もそうですが、しっかりと子どもたちに教えているからです。だから「この教えから離れるな」と言うのです。

父親も、そして、母親も子どもたちに「どのように生きて行くのか」という生き方を教えます。旧約聖書の中の、例えば、預言者サムエルのことを思い出してください。神はハンナに一人の男の子を与えました。ハンナの夫エルカナは年に1回、主の前にささげ物をもって、礼拝をささげるためにシロに上ります。Iサムエル1：22「ハンナは夫に、「この子が乳離れし、私がこの子を連れて行き、この子が主の御顔を拝し、いつまでも、そこにとどまるようになるまでは。」と言って、上って行かなかった。」、ハンナは夫の許可を求めて息子とともに時間を過ごすのです。24-25節「その子が乳離れしたとき、彼女は雄牛三頭、小麦粉一エパ、ぶどう酒の皮袋一つを携え、その子を連れ上り、シロの主の宮に連れて行った。その子は幼かった。：25 彼らは、雄牛一頭をほふり、その子をエリのところに連れて行った。」、ものの本によれば、子どもが三歳になったときにハンナはその子を連れて祭司の前に出て行きます。28節「それで私もまた、この子を主にお渡しいたします。この子は一生涯、主に渡されたものです。」こうして彼らはそこで主を礼拝した。」、三歳だとするなら考えられないことですが、三歳の子どもを主にささげるために連れて行き、

そして、子どもは祭司とともに生活をするのです。

私たちが覚えなければいけないことは、ハンナは神から託された働きをしたということです。その子にしっかりと教えるべきことを教えたのです。このサムエルに神を教えたのです。サムエルに信仰を教えたのです。彼女は神が命じたことをしっかりと行なったのです。モーセの場合もそうでした。モーセが産まれたときに「ヘブル人が産む男の子はみな殺せ」という命令がありましたが、そのようにしないでモーセはナイル川に流されました。パロの娘がその子どもを取り上げました。そのときに、モーセの姉ミリアムがこのように言います。出エジプト2：7「あなたに代わって、その子に乳を飲ませるため、私が行って、ヘブル女のうばを呼んでまいりましょうか。」、そして、8－9節「パロの娘が「そうしておくれ。」と言ったので、おとめは行って、その子の母を呼んで来た。：9 パロの娘は彼女に言った。「この子連れ行き、私に代わって乳を飲ませてください。私があなたの賃金を払いましょう。」それで、その女はその子を引き取って、乳を飲ませた。」、モーセは自分の母親によって育てられるのです。その間、モーセの母親は神のことを教えるのです。

旧約聖書だけではありません。新約聖書の中にもそのようなことが記されています。パウロが愛した弟子、テモテのことです。Ⅱテモテ1：5「私はあなたの純粋な信仰を思い起こしています。そのような信仰は、最初あなたの祖母ロイスと、あなたの母ユニケのうちに宿ったものですが、それがあなたのうちにも宿っていることを、私は確信しています。」とこのようにパウロは言います。つまり、この家系を見たとき、テモテの母親は自分の息子にちゃんとみことばを教えたのです。祖母もまた自分の孫にみことばを教えたのです。そして感謝なことに、このテモテは信仰者として神に大いに用いられました。ソロモンが言ったように「若者をその行く道にふさわしく教育せよ。そうすれば、年老いても、それから離れない。」(箴言22：6)、しっかりと教えてゆけば、年老いても彼らはその教えから離れないと言うのです。つまり、私たち親にはもの凄く大きな責任が神から託されているのです。託された子どもたちにしっかりと神を伝えていくことです。彼らに神のことを教え、みこころを教え、彼らが神の前を正しく生きていくように、彼らを教え導いていくことが必要です。

「教える」ということ、そのことはお分かりいただけたと思います。では、何を教えるのでしょうか？

☆子どもに何を教えるのか？ ： どのように生きるのかという「生き方」である

ひと言で言うと、それは「生き方」です。どのように生きていくのかを教えるのです。

A. 神を喜ばせる生き方 ： 神を喜ばせる人生を生きるにはどうすればよいのか？

私たちが子どもたちに教えるべきことは「神を喜ばせる生き方」です。それは、神を喜ばせる人生を生きるにはどうすればいいのか、そのことを私たちは彼らに教えていくのです。私たちの人生の目的は何でしたか？それは神の栄光を現わすことです。そのためにすべてのものは造られたのです。そのために私たち人間も、そして、この自然界のすべてのものが造られたのです。神の栄光を現わすということは、言い換えるなら、「神の喜ばれる日々を過ごすこと」です。今日という一日を神が与えてくださったから、今日を神の前に喜ばれるように生きていくことです。パウロがⅡコリント5：9で言っている通りです。「そういうわけで、肉体の中にあろうと、肉体を離れていようと、私たちの念願とするところは、主に喜ばれることです。」、生きていようと死んでいようと関係ない、どちらにしても、私たち信仰者が望んでいることは「神を喜ばせることだ」と言うのです。その通りです。そのためにあなたも生きているのです。あなたの創造主、あなたの救い主、あなたの主を喜ばせるという、その目的のために生きているのです。

パウロはそのように生きようとし、そして、そのように生きていました。自分だけでなく、彼は人々にそのように生きることを教えていました。私たちが知っているように、パウロには家庭がありませんでした。しかし、キリストにある家族はたくさんいます。パウロは多くの人たちにこの大切なことを教えたのです。その一つが、テサロニケの教会に対しての教えです。このように記されています。Ⅰテサロニケ4：1「終わりに、兄弟たちよ。主イエスにあって、お願いし、また勧告します。あなたがたはどのように歩んで神を喜ばすべきかを私たちから学んだように、また、事実いまあなたがたが歩んでいるように、ますますそのように歩んでください。」、パウロが言うことは、どのように歩んでどのように生きて神を喜ばせるべきか、どうすれば神を喜ばせることができるのか、それを私たちから学んだように、そして、今、あなたたちがそのように歩んでいるように、ますますそのように生きてくださいということです。パウロもそのように生きました。そして、パウロの愛する者たちにこのように生きるのだということを教えたのです。そして、そのように生きている人々を彼は神に感謝するのです。

信仰者の皆さん、神の栄光のために生きる者へと生まれ変わったあなたが考えなければいけないことは、パウロがエペソ5：10で「そのためには、主に喜ばれることが何であるかを見分けなさい。」と言うよ

うに、その責任を私たちはいつも負っているということです。この状況においてどうすることが神を喜ばせることになるのか、このときにどうすれば神を喜ばせることができるのか、人々からこのようなことを言われたけれど、どのように意見をすることが神の前に喜ばれるのか、どういう態度で生きることが神に喜ばれるのか、そのようなことをあなたがたは見分けなさい、考えなさい、選択しなさいと言うのです。これは母親だけのことではありません。私たち信仰者一人ひとりに言えることです。男性であれ女性であれ、既婚者であれ未婚者であれ、救われたあなたはこのように生きていきなさいと。私たちはみな、このように生きていこうとしていると信じます。

今日は、その中で特に、お母さんたち一人ひとりに神から示されている大切な務めについて、ごいっしょに考えてみたいと思います。神の前に喜ばれることを考えながら生きている皆さん、特に、お母さん、あなたがこのように生きて行くな神はあなたのことを喜んでくださいます。今、私たちが見て行こうとするその内容は、特に、母から娘に教えて行くべきことです。もちろん、息子たちには教えなくてもよいということではありません。あなたはあなたの娘たちにこれらのことを教えて行きなさいと言われていること、それをこれから見て行きます。

お母さんたちへ： これらのことを特に娘たちに教える

1. 神に喜ばれる家庭をどのようにして築き上げるのか

パウロはテトスへの手紙2章で非常に興味深いことを記しています。年配の婦人たちは信仰者としてこのようにして神に喜ばれることを為して行くようにと話した後、パウロはこのようなことを言います。2：4-5「そうすれば、彼女たちは、若い婦人たちに向かって、夫を愛し、子どもを愛し、：5 慎み深く、貞潔で、家事に励み、優しく、自分の夫に従順であるようにと、さとすことができるのです。それは、神のことばがそしられるようなことのないためです。」「さとすことができる」とそのリストが上げられています。それは「神のことばがそしられるようなことのないためです。」とあります。パウロは大切な教えとしてこのように言ったのです。ここに「家事に励み」と記されています。パウロはなぜ年配の婦人たちに対して、このようなことを若い女性たちに「しっかりさとしなさい」と言ったのでしょうか？それは、彼女たちに与えられている大きな責任、それが家庭だからです。

確かに、その当時の婦人たちは、粉を挽くこと、パンを焼くこと、洗濯や料理、子育て、糸を紡ぐこと、客をもてなすこと、家をきれいに保つなど、多くの責任を持っていました。リストを見ると今と余り変わらないのですが、パウロは婦人たちに与えられている大切な務めの場は家庭だと言うのです。家族がそれぞれのところから家に帰ってきたときに、そこが戦場であってはならない、安らぎの場所であるようにと言います。なぜなら、みな戦場から帰って来るからです。癒しの場、一番憩える場所、一番リラックスできる場所、そして、本当にともに神に感謝をささげる場所、そのような家庭を築いていくという大きな責任があるのです。皆さん、あなたがそのように家庭に目を向けて、そして、神に喜ばれるすばらしい家庭を築いていくことによって、あなたは大切なレッスンを次に続く世代に教えているのです。娘たちもこれらを通して自分もこのような家庭を築くべきだと学ぶのです。子どもたちに示して行くのです。神が喜んでくださる家庭を築くことは女性の大きな責任です。

2. 神に喜ばれる妻となるためにはどうすればよいのか

もし、神が結婚を許されたなら、彼らが学ばなければいけないことは、どのような歩みをするのが神に喜ばれる妻になることかということです。彼らはそのことを知る必要があります。みことばの中に四つのことが記されています。

1) 夫を愛すること

先ほど見たテトス2：4に「そうすれば、彼女たちは、若い婦人たちに向かって、夫を愛し、」とあり、「夫を愛すること」が教えられています。これはソロモンのことばを使うなら、箴言31：12に「彼女は生きながらえている間、夫に良いことをし、悪いことをしない。」とある通りです。このことを考えてみてください。「夫に良いことをし、悪いことをしない。」のです。アメリカのベストセラー作家であるエリザベス・ジョージ、私の個人的な友人でもあります。彼女の「神の心にかなう妻」という本は日本語訳でも出ていますが、彼女は「妻」をこのように定義しています。「妻」は英語ではWIFEです。

W=warm（温める）： 夫の生活をあなたの愛で温めてあげなさい。

I=improve（より良いものにする、向上）： 助け手として夫の生活をより良いものにするように努力しなさい。

F=follow（従う）： 夫のリーダーシップに喜んで従いなさい。

E=esteem（尊敬する）： 夫を最高の敬意をもって尊敬しなさい。

どうですか？このような思いをもって神があなたに与えてくださった夫を愛しておられるかどうか？

2) 夫を助けること

あなたが神に喜ばれる妻となっていくために必要なことは、あなたの務めをしっかりと知らなければいけないということです。それはあなたの夫を助けることです。覚えておられるでしょう。女性がどのような目的をもって造られたのか？神はすべてのものをお造りになった後、アダムに被造物に名前を付けなさいと言いました。その後、創世記2：20「こうして人は、すべての家畜、空の鳥、野のあらゆる獣に名をつけたが、人にはふさわしい助け手が、見あたらなかった。」、犬では駄目だった、猫でも駄目だった、猿でも駄目だった、人にふさわしい助け手が存在していなかったということです。そこで、18節「その後、神である主は仰せられた。「人が、ひとりでいるのは良くない。わたしは彼のために、彼にふさわしい助け手を造ろう。」と神はこのように言われたのです。これはどういう意味でしょう？先ほど紹介したエリザベス・ジョージは、注解書の訳を使ってこれはこのような意味だと説明します。「人は彼の責任とともに担い、愛と理解をもって応答し、神の計画を実行するに当たって、全身全霊をもって彼に協力してくれるだれかを必要としていた。」と。つまり、男性に欠けていた部分、必要としていたことは、自分に与えられている必要を担ってくれて、愛と理解をもって自分の質問に応答してくれて、そして、神の計画を実行するに当たって、全身全霊をもって自分に協力してくれる、そのような助け手です。そのような存在は動物の中にはいなかったの、神は助け手をお造りになったのです。それが「妻」です。

ですから、妻は、夫に与えられた「家庭を治める」という大切な、また、非常に難しい責任を果たすために、その妨げとならないために、夫を尊敬し、彼を思いやり、彼を理解し、そして、彼が神から与えられた責任を果たせるように祈り続けていくのです。

3) 夫を尊敬すること

皆さんどうでしょう？正直に、子どもたちの前でお父さんのことを蔑んだりお父さんの悪口を言ったりしていませんか？お父さんの批判などしていませんか？もし、そのようなことがあるなら、あなたはあなたの娘たちに「このようなことをしても構わない」というレッスンを与えていることになります。では、どのようにすればいいのでしょうか？子どもたちの前で、あなたの夫を神の前に感謝することです。お父さんの働きに対して、仕事に対して、お父さんが頑張ってくれていることに対して、お父さんがこの家族のリーダーであることに対して、そして、このようなお父さんが与えられていることに対して感謝することです。

皆さん、私たちがすぐに陥ってしまうこと、それは他人と自分の伴侶を比較することです、そのような誘惑に陥りませんか？「あんな人だったら…、こんな人だったら…」と、そのようなことは決してしてはならないのです。比較するのは「あなた自身と神のみこころ」です。つまり、神が望んでおられるような妻に私がなっているのかどうかと、神のみこころと自分自身を比較することです。その時に反省が生まれて来ます。その時に悔い改めが生まれて来ます。なぜなら、そうするとき、私たちはどれ程自分がみこころから外れているのかに気付かされるからです。「夫を愛しなさい、夫を助けなさい、夫を尊敬しなさい。」と。

4) 夫に従うこと

そして、四つ目は「夫に従うこと」です。これは現在形です。「従うこと」がその人の「ライフスタイル」であるということです。みことばを見ましょう。

エペソ5：24＝「**教会がキリストに従うように、妻も、すべてのことにおいて、夫に従うべきです。**」

エペソ5：22＝実際には21節から続くのでこの動詞はないのですが、日本語では「妻たちよ。あなたがたは、主に従うように、自分の夫に従いなさい。」と「従いなさい」ということばが記されています。

コロサイ3：18＝「妻たちよ。主にある者にふさわしく、夫に従いなさい。」

1ペテロ3：1＝「同じように、妻たちよ。自分の夫に服従しなさい。」

いずれも同じことばが使われています。「従う」、「服従」と訳されていることばは、「下」ということばと「配置する、下位に置く」という二つのことばが合成されて出来たことばです。ですから、自ら進んでその人の下に自分を置くことです。ちょうど、下級の兵士が上官に従って行くように。神の前に女性が劣っているということではありません。神の前にはすべて平等であり、そして、神はそれぞれに特別な務めを与えておられます。

聖書が教えることは「妻はみこころだから、神が望んでおられることだから、命じておられることから、自分から進んで、夫よりもへりくだって、夫を支え、夫を持ち上げるような存在として歩んで行こう。」です。これは夫が未信者であっても同じです。夫がクリスチャンでなくてもあなたに命じられていることは同じです。先に見た1ペテロ3：1には「…たとい、みことばに従わない夫であっても、妻の無言のふるまいによって、神のものとされるようになるためです。」と、聖書は明確にそのことを教えています。もし、夫が罪を強要するならそれは別のことですが、それ以外の点で、未信の夫であってもあなたが夫に従ってゆくなら、神は夫に対してすばらしい証をなしてくださると言います。続く2節を見てく

ださい。Ⅰペテロ3：2「それは、あなたがたの、神を恐れかしこむ清い生き方を彼らが見るからです。」と、あなたが神を愛して神のみことばに喜んで従うなら、夫は見るのです。あなたが神を愛して神を恐れていることを。そして、神の元へと導かれていくと言います。「神を恐れかしこむ」ということばは、神を心から愛し敬っているということです。怖がっているのではありません。神を心から愛している、神を心から敬っている、その姿を彼らが見るからです。

ですから、このように見たときに「私は夫に従いたくありません」という思いをもつなら、その思いはどこから来ているのですか？それはあなたの罪から来ているのです。

◎「従いたくない」という思いは罪から来ている

アダムとエバがエデンの園から追放されるとき、神はそのことを警告されました。創世記3：16に記されています。「女にはこう仰せられた。「わたしは、あなたのみごもりの苦しみを大いに増す。あなたは、苦しんで子を産まなければならない。しかも、あなたは夫を恋慕うが、彼は、あなたを支配することになる。」と。あなたたちの間で必ず争いが生まれる、どちらが上に立つのか？妻は助け手として夫を支えていくという大きな責任を神から与えられていたにもかかわらず、妻が夫を支配しようとする、妻がすべてをコントロールしようとする、そのようなことになるということです。だから、家庭が上手くいかないのです。だから、神が家庭を祝さないのです。みことばに反しているからです。どのような言い訳も許されないのです。なぜなら、あなたに与えられている責任は、この神の教えに従うかどうかだからです。

◎主の命令に逆らっている

私たちは条件を付けたいのです。「…でも神さま、うちの家庭はちょっと違います…」と。神が言われることは、あなたがこのように生きて行くかどうかです。主の命令に逆らう者に神の祝福はありません。前マスターズ大学、聖書カウニング学部学部長のウェイン・マック先生はこんなことを言っています。「夫に対する服従は、夫への愛を試す試金石であると同時に、神への愛を試す試金石でもある。つまり、夫への服従は、単に夫に対するものにとどまらず、キリストに対する服従の行為であると見なされなければならない。」（「夫婦のきずなを強めるために」より）。あなたが夫に従うことは、まさに神に従っていること、同じだと言うのです。ですから、夫を愛さないことは神を愛していないことなのです。今、私たちが見て来たように、あなたの神に対する愛はあなたの夫に対する愛において明らかになるのです。あなたが本当に喜んで夫に従っているなら、自分から進んでそのようにしているなら、それは間違いなく、あなたは神に対して同じように歩んでいることだと言います。

神が喜んでくださる家庭を築くように私たちは教えなければいけないし、神に喜ばれる妻となるためにも教えなければいけません。そして、もう一つ、神に喜ばれる母となるためにはどうすればいいのか、そのことも教えるのです。

3. 神に喜ばれる母となるためにはどうすればよいのか

二つのことを上げます。

1) 子どもを愛すること

一つは、先ほど見たテトス2：4に「子どもを愛し」とありました。神が喜んでくださる母親になっていくためには、あなたは子どもを愛することです。でも、それは子どもの罪を放任することではありません。ソロモンは箴言13：24で「むちを控える者はその子を憎む者である。子を愛する者はつとめてこれを懲らしめる。」と言っています。私たちが覚えなければならないことは、どんなにかわいい子どもでも、罪人だということです。みな思います。自分の子は…、自分の孫は…かわいいと。でも、みな罪人です。彼らを正さなければいけないのです。間違っていることは「間違っている」と教えないといけないのです。「その生き方、その選択、それは違う」ということを言わなければいけないのです。親の権威に逆らうなら、間違っているということをしっかりと教えなければいけないのです。聖書がそのように教えるからです。神がそう命じているのです。「むちを控える者はその子を憎む者である。」、つまり、放ったらかしにしている、何もしない、それは子どもを愛していないことだと言うのです。罪を犯しているのにそれを放っておく親がどこにいるか？神が喜ばれないことをしているのにそれを放っておく親がどこにいるのか？と。神を愛している皆さんなら、子どももそうなって欲しいと願うはずです。

2) 子どもを教えること

だから、私たちはしっかりと教えて行かなければいけないのです。ご存じのように、これは大変に忍耐のいることです。祈りが必要です。大変難しい働きであることは事実です。しかし、この務めを神は良しとして私たちに与えてくださったのです。私たちは子どもを教えるのです。彼らに神のみこころを教えるのです。「これが神が望んでおられることだ」と。私たちは彼らに教えるのです。どのように生きていくのかを。子どもたちに教えるのです。「どのように家庭を築いていくのか」、

「どのようにして伴侶を選んでいくのか」、「どのようにして仕事を選んでいくのか」、「どのように生きていくのか」を。そのことを私たちはしっかりと彼らに教えていくのです。

お母さんたち、その責任は神からあなたに与えられたものです。あなたの生きざまをもって、しっかりと教えていきなさいと言うのです。

適応：少し考えてみてください。あなたのお子さんは主を信じることのすばらしさを学んでいますか？イエスを信じることはすばらしいことだと、彼らはそのことをあなたから学びましたか？主のみことばを学ぶことのすばらしさを彼らは学んでいますか？神のみことばが必要だ！みことばを学んで行こう！と。主のみこころに従うことのすばらしさを彼らは学んでいますか？私たちはそのことを教えないといけないのです。私たちのことばをもって、そして、もっと大切なことは私たちの生きざまをもって。あなたのお嬢さんは人生の先輩であるあなたを見て、あなたのような妻になりたいと願っていますか？あなたのような母親になりたいと願っていますか？皆さん、もしかすると、私たちに一番必要なことは、今、子どもの前に立って、これまでの間違っただ模範を子どもたちの前に謝罪することかもしれません。「お母さんは一生懸命して来たけれども、これまで良くない模範を示して来た。ごめんね！これからお母さんは主が喜ばれる母として妻として信仰者として生きて行きたい。だから私のために祈ってね！」と、子どもたちにこのように言うのは勇気が要ります。私たちのプライドを捨てなければいけません。でも、もしかすると、それが一番子どもたちが求めていることかもしれません。なぜなら、子どもたちは見ているからです。

この間、テレビを付けたとき、一般の曲でしたが、その歌詞を聴いていて考えさせられました。コーラスのところがこのように続くのです。「あなたの言うことばに気をつけなさい。子どもたちはそれを聞いているから。あなたの行動に気をつけなさい。子どもたちが見ているから。」と。これは大切な真理です。彼らはあなたや私を見ているのです。あなたがどのように生きているのかを。神が喜んでくださる信仰者として、そのような母として、そのような妻として、あなたが歩んで行くことです。

非常に難しいことであると分かります。今日皆さんに、これらのみことばを通して、あなたの希望を奪おうとしているのではありません。かえって、皆さんに希望を与えようとしているのです。神が望んでいることはどのようなことかを見ました。問題は、では、どのようにすればそのような生き方ができるのかということです。皆さんがよくご存じのことですから、簡単に五つだけ見ます。

B. 神を喜ばせる生き方の実践

1. みことばを学ぶ

それ以外の方法で神のみこころを知ることは出来ないのです。世の中の本をどれ程買い漁って読んでも、そこには何にもありません。神を喜ばせるためには、神のみことばを読まなければいけないのです。まず、私たちにとって必要なことは「みことばを学ぶこと」です。

2. みことばを正しく理解する

自分勝手な理解では駄目なのです。

3. みことばを実践する

4. みことばで自分を吟味する

神が望んでおられるような人に私はなっているのかどうか、そのような歩みをしているのかどうか、そのようにいつも自分を吟味することです。

5. 悔い改める

神が私たちに罪を示してくださったら、それを喜んで素直に謙虚に告白して悔い改めることです。

「悔い改める」というのは、間違っただ生き方を止めて正しいことをやっていくことです。そうして私たちはいつも神の前に正しく歩んでいこうとするのです。それ以外の方法で、あなたの信仰が成長することはあり得ないのです。

今日、私たちが見て来たのは、神を喜ばせる、そのような生き方をすることです。妻には妻の、母には母の大きな役割があります。もちろん、夫にも同じように大きな役割があります。未婚者の皆さんにも同じようにあります。どちらが優れているかということを言っているのではありません。聖書はそのようなことは教えていません。神はあなたを愛して、あなたにすばらしい祝福を与え続けてくださっています。大切なことは、私たちがどういう立場にあらうと、神の前に一人ひとりが責任を負っているということです。神を喜ばせるために生きる。それは言い方を変えるなら、神を畏れて生きるということです。先ほども見ました。みことばが言うように、神を畏れる人は悪を憎む人です。箴言 8：13 で教える通りです。「主を恐れることは悪を憎むことである。わたしは高ぶりと、おごりと、悪の道と、ねじれたことばを憎む。」、悪を憎む人とは善を愛する人です。神が喜んでくださることを愛する人です。

だから、あなたが神を愛する妻として成長するためには、神を畏れて、神を心から敬って歩み続けていくことが必要です。どうぞ、そのように歩み続けてください。しっかり主を見上げて、主が為してくださったすばらしい贖いのみわざを感謝して、この方を愛し、この方を心から敬いながら、このみことばを通して示される神のみこころに従い続けてください。その歩みをもってあなたは子どもたちに、どのように生きることが神の前に正しいのか、どのように生きることが神を喜ばせることなのかを教え続けていくことになるからです。失敗したら悔い改めてやり直すことです。歩むべき方向ははっきりしています。そして感謝なことに、神はあなたを助けてくださいます。ここに希望があるのです。もし今、希望を失っている人がいるなら、あなたは自分の力でそれをやろうとしているからです。振り返ってみてください。何回失敗して来たことか…。私たちは学ばなければいけないのです。すべての点において、神の助けが要るのです。そこに希望を見出してください。神があなたを助けてくださる。

私もいろいろな所でいろいろな葬儀を経験しました。イエスを信じていないそのような葬儀の場でも子どもたちが母親のその死に直面したときに、このようなことを口にするのを何度も聞きました。「お母さん、あなたの子どもとして生まれてよかった！」と。そんなことを聞くと「ああ、本当にこの親子はすばらしい関係があったのだな」と思います。

私は皆さんがキリストの再臨のときに、ともに死を経験することなく天にあげられることを期待するものです。しかし、考えてください。もしその前に、主が帰って来られる前に私たちが召されたとするなら、あなたの子どもたちがあなたに対してどのようなことを言うのを期待しますか？私が思うことは「お母さん、あなたは私の人生において最も大切なことを教えてくれました。あなたによって、主を信じて従うことがどんなにすばらしいことかを知りました。神のみこころに従って生きることが、どんなにすばらしいかをあなたを教えてくれました。だからおかあさん、感謝します。あなたの子どもでよかった。」と。

箴言 31 章は、皆さんがよくご存じの箇所ですが、すばらしい妻のことが記されています。夫も子どもたちも、この妻をこの母を誉め称えることが記されています。皆さんに質問したいのは、彼らはいったい彼女の何を誉め称えましたか？このように記されています。31：29－30「しっかりしたことをする女は多いけれど、あなたはそのすべてにまさっている。」と。：30 麗しさはいつわり。美しさはむなし。しかし、主を恐れる女はほめたたえられる。」「主を恐れる女はほめたたえられる。」とあります。あなたがあなたの愛する者たちから称賛されるのは、あなたが主を畏れて生きているからです。主を愛して、主を心から敬って生きているからです。そして、あなたがそのように生きるなら、あなたの主がそのことをほめてくださいます。よく忠実に、私のみこころに従って来たと。最終的な称賛は神から来ます。その神が誉められるのは、主を畏れて生きる人です。

そのような人として今日から生きて行きませんか？どうすればいいのか、みことばが教えてくれました。それを実践するための助けも神は備えてくださっています。私たちに必要なのは「神さま、そうです！そんな人として私は今から生きていきたい。あなたを畏れる者として。そして、どうぞ私の家庭で私を導いてください。私の遣わされているところで私を用いてください。願わくは、人々が私があなたを畏れていることを見て、あなたの許へと導かれて行きますように。」と、そのような歩みを今日から始めることです。主はあなたを助けてくださり、あなたを祝してくださり、あなたを用いてくださるのです。

《考えましょう》

1. 主が妻に与えられた責任は何でしたか？
2. 神が喜ばれる妻になるためにはどうすれば良いのでしょうか？
3. 神が喜ばれる母になるためにはどうすれば良いのでしょうか？
4. 神を畏れる者となるためにはどうすれば良いのでしょうか？